

田んぼダムの実証が始動

～水田を使った水害防止効果に期待～



R2.7月豪雨時(大仙市)

これまで、水田の多面的機能として田んぼダムの取組が行われてきましたが、近年、集中豪雨による災害が頻発化・激甚化し、人や農業用施設、畑作物等への被害が増加しています。このため県では、10地区程度のほ場整備事業実施地区において、本年度から本格的に田んぼダムの実証に取り組み予定としています。「田んぼダム通信」では、田んぼダムの取組状況・効果のほか、取組農家の声などを定期的に情報発信していきます。

田んぼダム通信

発行所
秋田県農林水産部
農地整備課
水利整備・防災班
TEL：018-860-1830
農地整備班
TEL：018-860-1824

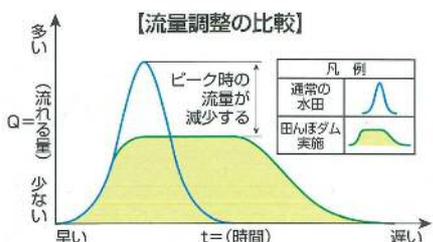


図1 (出典：農林水産省HPより)



田んぼダムとは？

通常の水田では、大雨時に降った雨がそのまま排水路へ流出してしまうため、水田や農道等への冠水被害が懸念されます。一方、田んぼダムの場合、一時的に水田へ雨水を貯留させ、流出の時間を遅らせることにより、ピーク時の流出量を軽減することができます。このことから、周辺の水田等を含め、下流域の被害を未然に防止する効果が期待されます。(図1参照)

田んぼダムの構造は？

水田から水路へ排水するための柵には、角落とし用の溝が2箇所あります。水田側には、これまで同様、営農のための調整板(写真①)を設置します。排水路側には、田んぼダム用の流出調整板(写真②)を設置します。

この効果として、排水路へ接続している塩ビ管より小さい孔が空いている流量調整板を設置することで、大雨時に排水量を軽減できる仕組みです。(図2参照)

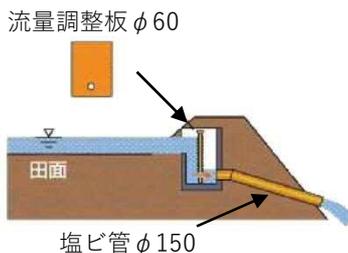


図2(農林水産省HPより)

スマート田んぼダム実証事業

仙北管内のほ場整備事業実施地区内でスマート田んぼダム実証事業(大仙美郷地区)に今年度より着手します。

約十畝の実証田に自動給排水栓装置(写真③)を設置し、大雨前にスマートフォンによる遠隔操作で一斉落水した後、大雨時の貯留と流出抑制を行い、流出量を計測し効果の検証・分析を行う予定です。



(写真③)